



基本理念

1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
2. 心とところをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

JUSTICE

自らを変える!! 明日を創る!! イーストイノベーション

ジェイアール・イーストユニオン
 発行者 菅野 一位
 編集者 教 宣 部
 〒105-0021
 東京都港区東新橋 2-8-28
 TEL(JR) 057-7333
 TEL(NTT) 03-6452-9687
 ホームページ検索
 「JREユニオン」

年末手当妥結

基準内賃金の2.0ヶ月

12月3日支給(予定)

激変するコロナ社会への対応が求められる今こそ、最大の財産である全社員の「働きがい」の創出を実現するため、そしてコロナ社会の不断の努力に見合う適正な配分にとこだわった、今回の成果!

第1回交渉 10月29日

組合側の要求趣旨について説明し、第2四半期決算及び通期見通し下方修正と厳しい経営環境が続いているが、最悪の状況からは脱出したと感じている。新型コロナウイルス感染症も一時期と比較するとだいぶ落ち着き、お客さまも徐々に鉄道利用

第2回交渉 11月4日

会社側からは現状認識と交渉にあたってのスタンスがあり、会社の持続的発展が社員のさらなる充実、働き甲斐向上が社員家族の幸福実現につながるという考えのもと、第2四半期決算の大幅な赤字、通期見通しの下方修正と非常に厳しい経営環境、経営課題の認識を共有することが前提である。ポストコロナ時代を見据え「変革2027」のレベルとスピードを上げ、更なる収益力の向上及び構造改革、系統を越えた取り組みを更に推進していく必要がある。支給水準については極めて慎重に判断しなければならぬという認識のもと、総合的判断が必要である。真摯な議論を進めたいとあった。

会社側より、当社損益の推移、景気動向指数、完全失業率と有効求人倍率の推移、生産年齢人口の推移、期末手当支給月数の推移といった資料について提示を受け、第1回目交渉に示された年末手当交渉におけるスタンスを改めて示し、議論を行った。第2四半期決算の大幅な赤字、通期見通しの下方修正と非常に厳しい経営環境、経営課題の認識を共有することが前提ではあるが、早期合意の認識は労使で一致していると考える。真摯に議論を進めて行きたいとの姿勢が示された。

第3回交渉 11月11日

組合側からは、会社の発展に寄与する全社員への報いが必要であること。今年4月から導入されたジョブローテーションについて、施策が行われているが社員の次のステップアップ、希望を見いだせていない状況があること。また、2022年度から現業機関における多様な働き方が予定されているが、社員の抱える不安が大きいこと。これらの施策は単年度ですぐに効果が表れるものではないと理解するが、社員が安心して働きながら引き続き真摯に施策に取り組みためのモチベーションアップも重要である。昨年度からの賞与等の支給実績からしても、今年度年末手当の満額支給は必要だと訴えた。

「回答」

1. 基準額は、基準内賃金の2.0ヶ月分とする。
2. 支給日(予定)は、令和3年12月3日とする。

会社側からの回答を受け、本部は臨時執行委員会を持ち回り開催した。「第2四半期決算は昨年同時期より改善されたが、2021年度決算は当初予定していた赤字決算から1,600億円の赤字

「連合・愛のキャンパ」 にご協力を!

「連合・愛のキャンパ」は、人道主義の立場から「自由、平等、公正で平和な世界の実現」に向け、社会貢献活動の一環として、NPO・NGO団体等への支援及び自然災害等による被災者に対する救援・支援を目的として取り組んでいます。
趣旨をご理解のうえ、積極的な取り組みを要請します!



◎期間 12月15日まで
◎目標 1人30円以上

字決算へと下方修正され、厳しい経営状況は依然として続いている。「新型コロナウイルス感染症拡大もワクチン接種が順調に進み、感染防止対策が浸透してきている状況である」「危機的な経営状況を一刻も早く回復しなければならず、そのためには一層の改革を推し進め、難局を打破しなければならぬ」といった議論があった。

最終的に、「私たちの要求には届かないが、職場で日々の業務に真剣に向き合い、この困難な状況を改善する取り組みを実施している組合員と家族に一刻も早く安心していただくことが先決と判断し、臨時執行委員会終了後、妥結した。

「変革2027」を含めた会社施策に協力しながら21下期の業績アップを目指し、全社員と家族の幸福を最大限追求していく!!

【Q&A】海岸林再生プロジェクトって？

宮城県南部沿岸域において、伊達政宗公の治世の時代に造成された海岸林。生活インフラとして防風、防砂、防潮、防霧などの機能を発揮する海岸林は、10年前の東日本大震災で木が根こそぎ倒されるなどの壊滅的な打撃を受けました。

震災直後から地元の方々の声を集め、ニーズを探った結果、長年緑化活動の実績がある「公益財団法人オイスカ」が宮城県名取市で海岸林再生のプロジェクトを立ち上げることになり、今もなお海岸林を取り戻す活動が続けられています。

JR連合は本プロジェクトに参画し、クロマツ植栽に関わるボランティア活動への参加や連合・愛のキャンパスを通じた寄付など、物心両面で海岸林再生を支援しています。

詳しい活動はオイスカのホームページに掲載中！！
右のQRコードから読み取りご覧ください。



JR連合とJREユニオンは11月6日、宮城県名取市で開催された「オイスカ海岸林再生プロジェクト」ボランティア活動に参加し、JR連合・荻山会長を筆頭に総勢13名が東日本大震災からの復興を抱きつつ、懸命に汗水を流した。

当日朝は名取駅東口に集

合し、荻山会長の「怪我無く1日頑張ってみよう！」と気持ちの入った掛け声の後、現地向け出発。今回は個人の参加者が多く、他団体を含め全体で30名程度が参加した。オイスカ・吉田啓発普及部担当部長からの説明、各参加者から挨拶を頂いた後、ボランティア活動は始まった。

オイスカ海岸林再生プロジェクト ボランティア活動に参加！

JR連合・JREユニオン総勢13名が汗水を流す



今回の作業内容ではまず、植栽現場でのモニタリング調査を実施した。各班に分かれ、約300本の幹の太さや樹高を測定した。4メートルも成長したクロマツの中を移動するのは至難の業であり、上部から落ちてきた枯れ松が手や顔の露出部に刺さり、痛い思いをする場面もあった。



モニタリング調査終了後は、スコップを手に溝切りを進めた。これはクロマツの水ハケをよくするための重要な作業で、水の流れが芳しくなければクロマツの成長に大きな影響を与えかねない大切な作業である。オイスカ職員は慣れた手つきで溝を掘り、スピードも速く、

とても生産性効率の良い仕事をしていた。参加者の仕事が想定以上に手際よく、予定より2時間も早く終了。太平洋を見渡しながら黄昏タイムを名残惜しんだ後、集合写真を撮影し、オイスカ名取事務所解散式をおこなった。

場所を変えて開催された懇親会では、当日のボランティア参加中の苦労話、マニアックな鉄道話、労働組合の必要性、趣味の話で盛り上がった。締めには、次年度も引き続きオイスカボランティア活動に参加する決意を参加者全員で誓い合った。

貨物鉄産券「サンふじりんご」 物資販売支援をお願いします！

- ①中玉1箱5kg 約18個 **4,500円**
(税・送料込)
- ②大玉1箱5kg 約16個 **4,800円**
(税・送料込)



(※画像はイメージです)

- ◎申込 12月17日まで
- ◎発送 12月5日～12月23日まで

お申し込みは直接、貨物鉄産券まで！